

巻頭言

今世紀の課題と エンジニアの成長



守友技術士事務所
日本工業大学理事
山武 技術コンサルタント

守友 貞雄

今世紀の課題

我々「ものづくり産業」にかかわるエンジニアの責務は社会に快適至便を提供することである。

今世紀、全ての人類がさらに快適至便な生活を求め、その権利を主張し、また人類の絶対数の増大が推定されている通りに必然であるとするれば地球全体のエネルギー需要は現在の数倍になってしまう。上記エネルギー資源と食糧資源、飲料水の払底は過去とは様相を変えた国際的な紛争の原因ともなり、21世紀の重要で困難な課題となり得る。

21世紀の「ものづくり産業」にかかわるエンジニアは、前述の社会を作ることへの貢献と、環境を含む地球の限界を守ることとを両立させる困難で創造的な業務の遂行を社会から求められていると理解すべきである。

具体的な課題となる省エネ、省資源、リサイクル等は部分的に実行されているが、緒についたばかりで不十分である。また、あらゆる人工物を製造する際、使用する際として廃棄する際の使用エネルギーの極少化とエネルギー効率の極大化は重要課題でありながら未だ認識すら不十分で、実行に至ってはさらに不十分である。

今や人類の持ち時間は猶予できない程に深刻であると考えらるべきである。

21世紀のキーワードは20世紀の「重厚長大」から「軽薄短小」を超えて「再省微軽」に変えねばならない。

上記課題の解決は「ものづくりエンジニア」の創造的実行によるのである。

次に、これらの課題の解決を実現するエンジニアの持つべき資質と行動姿勢について考える。

エンジニアの持つべき資質と行動姿勢

人間が進化の過程で獲得した創造力は多くの能力の中でも極めて重要な能力である。創造力には個人差が大きいように見えるが、本来大差がないようにも思える。

創造作業には唯一絶対の正解は無い。無限にある解の中からより良いと判断する一つを選ぶ作業である。その解は主観的に良いと判断したにすぎず、何時か、さらに良い解にとって変わられるのも必然である。

したがって決断には不安があり、なかなか踏み切れないのは自然である。だからこそより良い成果を創造する条件として、実行する人間の持つ心理特性は極めて重要となる。心の中の「こだわり」「とらわれ」「偏り」や「ネガティブなプライド」などを捨てる事が必要である。

そして先入観なく虚心に人や情報と接し、知識や知恵を多くの人達から集めるのである。この行動によりチームの活性が高まり、優れた創造に到達できる。

チームによる仕事

優れた創造は優れた個人によることは当然ではあるが、チーム活動は上記の個人的資質を高める手段として、また業務の達成効率を高くするにも効果がある。

ただし私の体験から具体的に付け加えれば、チームが次のような制約の元で作られ、行動指針が守られることが必要である。

- ・異なる機能、専門を持つ5~7名で構成
- ・ミーティングは15分以内/回、1~3回/日
- ・議論、提案での否定語、単なる評論は厳禁
- ・建設的な提案、意見のみ許す(否定語は使わず)
- ・提案、意見の評価は時間経過後、別途ミーティング
- ・ミーティング時間は延ばさず、実行納期は厳守etc.

このようなグループ活動は自在に議論が弾み、活性化が高まり、独創的なアイデアが現れる。

またミーティングの場ではメンバー全員に成長がみられるが、特にチームリーダーの成長は顕著となる。

まさに「ものづくりは人づくり」である。

いずれにせよ、その人づくりの効果の質は実行組織運営の仕組みへの工夫にあると考える。

エンジニアの皆様は、ご自身の成長に努力し、今世紀の重要課題を解決した、山武独自の製品群を社会に提供し続けて戴きたい。

守友 貞雄 (もりとも さだお)

略 歴：1957年 東京工業大学機械工学科卒業
1957年 株式会社第二精工舎(現セイコーインスツル株式会社)入社
1964年 セイコー精機株式会社(SIIの100%子会社)創立とともに転籍
1979年 同社 取締役就任
1984年 同社 常務取締役就任
1987年 同社 代表取締役社長就任 兼 フランス国S2M社取締役就任
1989年 セイコー電子工業株式会社(現セイコーインスツル株式会社)
常務取締役就任 兼セイコー精機株式会社代表取締役社長
1994年 セイコー電子工業株式会社代表取締役副社長就任
兼 セイコー精機株式会社会長 兼 フランス国S2M社会長
1999年 セイコーインスツル株式会社顧問就任
2003年 セイコーインスツル株式会社顧問退任
2003年 学校法人日本工業大学理事就任

学会等：精密工学会 理事、副会長、産学協議会会長を歴任 現在：名誉会員
砥粒加工学会 理事、副会長、会長を歴任 現在：名誉会員、評議員
賛助委員会、顧問

賞 罰：1976年 精密工学会 大越賞(技術賞)受賞(適応制御内面研削盤の開発)
1998年 フランス国 国家功労賞 オフィシェ賞受賞(フランスでの会社経営の成果に対し)